

受 付	令和 8 年 8 月 19 日 午前・午後 10 時 05 分
--------	------------------------------------

一般質問（代表・個人） 通告書

令和 8 年 8 月 19 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 谷 口 武 司

尾張旭市議会会議規則第50条第1項の規定により 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 2 件

2 質問方法

	1回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとに一問一答
☒	1回目から 質問事項（大項目）ごとに一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



令和6年に策定された「尾張旭市第六次総合計画」では「尾張旭市第五次総合計画」に入っていた計画人口に関する章立てがなくなりました。「尾張旭市第五次総合計画」の第3部第3章の冒頭には、「人口減少と高齢化による生産年齢人口の減少は、社会保障費の増加と税収の減少を招くため、今後、税収を確保し安定した行財政運営を進めていくには、計画人口で示した人口の増加、とりわけ生産年齢人口の増加に向けた取り組みが大変重要です。都市像実現のためには、計画人口の実現が鍵を握っていると言えます。」と記載されていました。「尾張旭市第六次総合計画」では、人口については、従来の計画実施によって目指す目標という位置付けから、計画策定のための基礎としての位置付けへ変更し、計画書の中に人口推計やその分析を掲載することとされました。尾張旭市の人口ピラミッドは、1973年生まれ、ことし53歳の方を頂点に少なくなっていくと見られます。団塊の世代の方は、より人数の多い団塊ジュニア世代に支えられています。現実に直面している問題は団塊ジュニア世代以降の世代を支えるためにどのような対策を施していくかになります。生産年齢人口世代の流出を抑え、継続的に本市に転入していただく、人口構想図が上から下まで均一な円筒形により近づくことが理想だと私は考えます。振り返れば、柴田市長の就任当初の所信表明で「少子超高齢化と人口減少が我が国をむしばむ深刻かつ最大の課題」、「今ここにある危機」と述べられました。この発言は日本全体をふかんした発言であり、本市もそのうねりの中にあるとの思いからの発言であったと思われます。市長就任1期目の最終年度でもあります。「尾張旭市の人口と中期財政計画について」質問させていただきます。

※ 申し合わせ事項に留意する。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

尾張旭市の人口と中期財政計画について

No. 1—3

(3) 1人当たりの個人市民税の平均納税額の推移について

1人当たりの個人市民税の納税額はどうか。中期財政計画で見込んだ、令和9年度以降の賃上げによる増収と、給与所得控除の見直しなどの税制改正に伴う減収を見込んだ結果、個人市民税の平均納税額はどのようになるか伺います。

(4) 投資的経費額の推移と予測について

一つ前の中期財政計画（令和 8 年から令和 10 年）を活用した尾張旭の財政（令和 7 年度版）の、義務的経費の見通しでは令和 6 年から令和 10 年にかけて、毎年約 5 億円の増加を見込まれています。こちらの経費は人件費、扶助費、公債費になるので抑制は難しいものになると思います。

では質問の投資的経費についてですが、同資料よりお伺いしますが、令和4年から令和6年の額は29.2億、29.9億、23.3億と20億円台で推移、令和7年から令和9年では40.7億、44.5億、42.0億と約10億円ほど平均的に増加しています。令和10年からは三郷駅周辺まちづくり事業により75.1億と急増するわけですが、投資的経費の増加理由と妥当性、また投資的経費の抑制案などについてお伺いいたします。

(5) 中期財政計画に見る財源不足に対する歳入の確保について

令和８年度から尾張旭市では、歳出削減と新たな財源の模索で年間５億円の資金を削減しようと努力されております。遊休土地の売却や利活用などについては、今現在公表できない事案もあるかと思いますが、どのように対応されるかお伺いいたします。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項	「コンパクト＆ネットワーク」尾張旭市は名古屋市圏における
No. 2—1	地域拠点になり得るか
要 旨	コンパクトで持続可能なまちづくりを目指す必要があるとよく言われます。私たちの未来はどうなるのか、税金の支払は程々な、心身ともに豊かで環境負荷も少ない現在の暮らしと、次世代への引継ぎを目指したいものです。 昨年の全国都市問題会議の折、京都大学名誉教授の広井良典氏の基調講演において、人口減少時代にあって、西暦 2050 年に向けた未来のシナリオとして、「集中都市型」と「地方分散型」があり、今後 10 年以内にその選択をすべきであると提唱されておられました。「都市集中型」を選択すれば政府の財政は持ち直すものの、地方の衰退・出生率の低下・格差の拡大・健康寿命や幸福感の低下が予測される。「地方分散型」を選択すれば上記の逆の現象となるもののCO₂排出量の増加が予想される。この選択の中で、講演は「地方分散型」のシナリオを重視し、さらに、単なる「一極集中」と「多極分散」といった高度経済的な考え方ではなく、「多極分散」を比較的財政力豊かな地方都市を中心とした「多極集中」の考え方こそが成熟社会の都市の形ではないかと展開されました。 さて、「多極集中」の考え方の中で、3大都市の名古屋市を地方都市と呼ぶのかどうか意見は分かれていますが、尾張旭市はこの名古屋市圏に含まれつつ将来を展望していかなければなりません。今回の質問においては尾張旭市を地方都市名古屋の一部とした場合に、名古屋市圏の地域拠点として生き残るために必要なことは何かを考えていきたいと思い質問させていただきます。

※ 申し合わせ事項に留意する。

前提となっているのは「周辺地域から容易にアクセス可能な地域の中心」です。交通を中心に考えると、説明のイメージ図でよく使われるのが魚の骨の図ですが、名古屋市の中心部を魚の頭とした場合背骨から延びる中骨、尾張旭市では背骨は名鉄瀬戸線になります。この背骨と中骨の接点を中心として、徒歩・自転車・バス・鉄道でアクセスできることが前提となります。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

「コンパクト&ネットワーク」尾張旭市は名古屋市圏における
地域拠点になり得るか

No. 2-3

(3) 他市町の方の市内通過利用の調査をしてみてもどうか

尾張旭市は名古屋市、瀬戸市、長久手市との市境がありますが、特に南北方向の移動には名古屋市の志段味地区、守山区東部地区方面などからの相互移動に尾張旭市内を通過利用している事例があると思います。私の自宅はシンボルロードと城山街道の交差点付近ですが、尾張小牧ナンバーの車両より名古屋ナンバーや春日井ナンバーの車両の方が多数通過していきます。他市の方が本市をどのように通過したり、利用したりしているかを把握することは、今後のまちづくりや交通を考える上で重要ではないでしょうか。

現在、市ではこうした通過や利用をどのように把握しているのか、また、今後更に調査、把握していく考えがあるのかお伺いします。

要

III

※ 申し合わせ事項に留意する。

名古屋市圏の地域拠点として生き残ることを前提とすると、名古屋市と歩調を合わせていかなければなりません。技術の発展は新しい移動手段や人の居場所を作る可能性を秘めています。今後の交通手段の変化をどのように捉え、それに対する地域拠点をどのように考えているかお伺いします。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

No. 2-5

「コンパクト&ネットワーク」尾張旭市は名古屋市圏における
地域拠点になり得るか

(5) 地域拠点としての尾張旭駅周辺の可能性と利便性向上について

表題として、「コンパクト&ネットワーク」尾張旭市は名古屋市圏における地域拠点となり得るか」となっておりますが、尾張旭市都市計画マスタープランでの中心拠点とする範囲、この範囲への集中的な投資と再開発によって、名古屋市圏の地域拠点として、尾張旭市民だけでなく圏域の中での移動、交流、発展ができるかを本旨とすることを定義させていただきます。

国土交通省が示す地域／生活拠点には、行政窓口、介護・福祉、子育て、商業、医療、金融、教育・文化の施設が想定されています。

中でも尾張旭駅周辺は、市役所・郵便局・銀行などの公共的施設が集まり、鉄道やバスが利用できる場所です。こうした特性を生かし、尾張旭市民だけでなく周辺地域の方にも利用される拠点としていくことができるのではないのでしょうか。市は、地域拠点としての尾張旭駅周辺の可能性をどのように考えているのか、また、その利便性をどのように高めていくのかお伺いします。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質 問 事 項

「コンパクト&ネットワーク」尾張旭市は名古屋市圏における
地域拠点になり得るか

No. 2 - 6

(6) 名古屋市と連携した都市計画の推進について

尾張旭市が名古屋市圏における多極の一つとして地域拠点を目指すためには、本市だけで考えるのではなく、名古屋市を含む周辺地域との関係を意識する必要があります。

特に、名鉄瀬戸線は尾張旭市と名古屋市を結ぶ重要な交通軸です。市境を越えて人が移動し、生活圏がつながっている中で、都市計画についても広域的な視点が求められるのではないのでしょうか。

そこで、本市の都市計画と名古屋市の都市計画との関係をどのように捉えているのか、また、今後、名古屋市とどのように連携して都市計画を進めていくのかお伺いします。

要

III]

※ 申し合わせ事項に留意する。